

- 1 ボール盤では、リーマ加工、中ぐり、座ぐりの作業はできない。
- 2 旋盤は、工作物を主軸に取り付け、切削工具を回転させながら切削加工を行う工作機械である。
- 3 直流回路に電流 $I$ が流れるとき、抵抗 $R$ で消費される電力 $P$ は、 $P = IR^2$ で求められる。
- 4 2極と4極の三相誘導電動機を同じ電源で使用する場合、4極の回転数は2極の回転数の2倍になる。
- 5 一般的に、アナログ方式の回路計（テスタ）では、交流電圧値を測定することはできない。
- 6 シーケンス制御には、順序制御や条件制御などがある。
- 7 管理のサイクルとは、Plan→Do→Action→Checkの順に繰り返すことである。
- 8 五感や簡易な測定器などによる点検は、安全が確認できれば、必ずしも機械を止めて行う必要はない。
- 9 設備履歴簿に、故障が発生した日付やその状況を記録しておくことにより、故障傾向の分析に利用することができる。
- 10 ウォータハンマ（水撃現象）の発生を防止する方法の1つとして、弁をできるだけ急速に閉めることが挙げられる。
- 11 ガントチャートは、工事の進捗状況などを把握するために用いられる。
- 12 炭素鋼であるS20Cの炭素含有量は、約2.0%である。
- 13 ステンレス鋼は、鉄鋼にクロム（Cr）やニッケル（Ni）を加えて金属の性質を改善したものである。
- 14 焼入れ硬さは、鋼のクロム含有量によって決まる。
- 15 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰<sup>しつけ</sup>）の「整頓」とは、必要なものと不要なものを区分し、不要なものを置かないことをいう。

- 16 同じトルクで細目ねじと並目ねじを締めたとき、締付力は並目ねじの方が大きい。
- 17 マイクロメータで測定するときは、測定圧が一定になるように、最後の調整はシンブルを使用する。
- 18 ポンプのグランドパッキン部から多量に水漏れしていたので、完全に水漏れを止めた。
- 19 グリースは、ちょう度が大きいほど柔らかい。
- 20 被覆アーク溶接とは、電極にタングステンを、シールドガスにイナートガスを用いて行うガスシールドアーク溶接のことである。
- 21 非破壊検査法のうち、浸透探傷法および渦流探傷法は、内部の欠陥検出に適している。
- 22 メータイン回路とメータアウト回路では、逆止弁の向きが異なる。
- 23 一般的に、空気圧の応答性は油圧に比べて劣る。
- 24 油圧機器に使用している作動油の温度が40℃であったので、異常無しと判断した。
- 25 油圧作動油は、石油系作動油、合成系作動油、水成系作動油などに分類される。
- 26 熱硬化性プラスチックは、加熱すると融解し冷却すると固化するが、再度加熱すれば成形し直すことが可能である。
- 27 硬質クロムめっきは、耐摩耗性を向上させるが、衝撃には弱い。
- 28 物体の運動エネルギーは、速度が2倍になると4倍になる。
- 29 弾性域内において、ひずみは応力に反比例する。
- 30 しまりばめとは、穴の最小許容寸法より軸の最大許容寸法の方が小さいはめあいのことである。